

件名	令和6年度 福井市障がい者自立支援協議会 第4回 居宅生活支援部会 議事録		
日時	令和7年1月23日（木）10：00～11：00	会場	福井市役所 本館3階第3会議室A
欠席者	福井県医療ソーシャルワーカー協会：北川氏 福井県社会福祉士会：竹澤氏		
会議次第	1. 報告及び協議内容 （1）各WGの進捗報告等について ○地域理解促進 ○課題抽出 資料1 2. 今年度の取り組み内容と来年度の居宅支援部会について 資料2 資料3		
報告	1. 各WGの進捗報告等について ○地域理解促進 【部会長】 ・今年度最後の部会になるので、今年度の取り組みからぜひ来年につながるもの、皆さん活発なご意見をお願いしたい。 【黒田氏】 ・各ワーキンググループの進捗について事務局から報告する。 本日実施予定の森田地区の民生委員への研修について。障がいのある方の生活実態がどのようなものなのか、北山委員の研修内容のところを盛り込み（精神や発達障がいがある方にどのように繋がるといいのかを知りたいという要望があった）、自立支援協議会の説明と支援の流れや、特性が異なる事等の事例を紹介する予定。 ・2月14日は川西地区と3月15日には旭地区の予定だが、参加者が未定なので協力をお願いしたい。		
説明	【部会長】 ・1月の民児協会会長会に挨拶をしてきた。来年度に向けて成和地区も依頼されたが、精神障がいの方の支援に困っているという話があったので、地域移行の山崎部会長に依頼してもいいのではないかと。黒田さんは地域移行の事務局を以前にしていたのでいかがか。 【黒田氏】 ・地域移行定着部会での地域理解促進のワーキングはその後やってはいないが、次回の2月14日、3月15日の研修には精神の関係者にも行ってもらいたい思いはある。 【部会長】 意見や質問はいかがか。 【長谷川氏】 ・3月15日の旭地区社会福祉協議会での研修会について、補足説明する。この研修は、地区社協の役員と福祉委員と民生委員が中心となつての研修会。福祉委員は基本2年間任期だが、この地区は特に自治会が1年交代なので、福祉委員も交代している状態である。そのため3月15日の研修は新しい福祉委員も含めての研修となる。民生委員は個別のケースとか、相談に関わりながら繋ぐ部分も担っているが、福祉委員は普段から見守り等で気になった方を民生委員に繋ぐ等の役割。何か気がかりなことがないかの気配り、あるいは地		

意見等

域の中での声かけや、挨拶等のお願いをしている。その為 個別のケースのような内容ではなく、障がい理解等にポイントを置いて、「特別じゃない、普通に私たちと同じように暮らしている」というような理解を進めていけるといいのかなと思う。質疑応答入れても 30 分以内ということもある。また、当日は市の危機管理課からの個別避難計画作成の説明もその前後とする予定である。

- ・当事者の方からのお話を、直に聞く機会の場でもいいのでは。駅近くで暮らしていて話をしてくださる方の情報があれば。

【北山氏】

- ・思い当たる人はいるが旭地区ではないが、インタビュー形式というか、こちらが道標等を立てれば受けてくださる方はいるかもしれない。
- ・それを本当に地域の人々が求めている、その話でこの地域理解という目的に沿ったことができるのか。そこがまだ腑に落ちていない。民生委員、町内会長等が話すならまだしも「地域で楽しく過ごしています。元気にやっています」では、うまく繋がっていかないのでは。

【部会長】

- ・昨年度に行ったときは、本人への質問というよりはきっかけという形だったと思う。自分の経験からは、彼らはいつでも声をかけて欲しいと言うわけじゃない。干渉されるのは嫌だけど、ちょっと自分が言った時には聞いてという人たちも結構多い。

【丸山氏】

- ・私の地区では、各自治会の会長や福祉委員が集まって個別避難計画を作る中で、障がいの人に対してどのように接していいかわからないという話があった。個別避難計画を作るにあたって、障がいの人たちにどのような風な配慮したらいいのか。

【宮永氏】

- ・他の地区に住んでいる方で、実際に個別避難計画を作って地域との関わりを持っているような方が出られるといいのでは。

【黒田氏】

- ・この場で実際に地域で繋がっている方をピックアップして、この人をお願いしようというのは難しい。地域と繋がっている方が実際にいるのか。地区外でも繋がっていて、研修に来てくれる方がいるかは、事務局がメンバーに個別に声かけをして整理させてもらう。3月15日までには声かけさせてもらう。2月14日川西地区の研修では、民生委員は引きこもり等のサポートをどのようにしていくかを中心にと依頼されている。

報告

○課題抽出について報告

資料1 参照

【黒田氏】

- 健康面→障害種別によって感じている課題が人によって異なる。できれば焦点を絞りやすい医療との連携とか、焦点を絞って課題について考えてはという意見があった。
- 生活費・財産→親なき後の不安。制度があっても、活用の仕方を知らない当事者が多いのでは。制度の周知や活用などの研修の機会も必要。窓口の一覧やフローチャートや手引きがあると、当事者向けに分かりやすい冊子のようなものはないかという意見もあった。次年度以降は部会の方で作成、研修会の開催、制度活用等の周知が研修でできるといいのではという意見も出ている。

報告

- 家族について➡家族の課題については具体的取り組みまでは進んでいない。
- 移動・余暇について➡次年度以降 更新ができるように、見やすくしたものを周知できる
といいのではと考えている。

2. 今年度の取り組み内容と来年度の居宅支援部会について

【坪田】 資料2参照

- ・地域の障がい者の地域理解促進については、ワーキングの中で2回検討を行って、民児協、福祉委員の方への周知、啓発等は次年度にも考えていきたい➡「継続して研修資料を見直してブラッシュアップを行っていく」「依頼があれば随時共有し、研修を行う」となっているが依頼を引き出す、導き出すということも1つ大事なかなと思っている。
- ・人材不足については矢印が書いてあるが、第7期の計画に基づいて新たな地域課題の視点で検討し直すということで、地域生活の移行が進まない理由、地域で暮らすための課題に対する具体的な協議を進めていきたいとなった。福祉人材不足という漠然とした課題ではなく、次年度はアンケートを分析した中から抽出された課題を整理し優先課題から協議を行っていくこととなった。
- ・令和5年作成の冊子の更新は皆さんの色々な意見をもらいながら、冊子をどのように改めていくかを考えていきたい。

資料3参照

- ・分類：「家族、近所付き合い」➡テーマ（仮：「地域理解促進」今すでに実践、継続していく。備考：「対応中」
- ・色々意見をもらいたい項目はNo.3、4、5、6の4つ。
当事者向けのサービス・制度一覧作成。移動についての課題は、コムサボの方が部会にて実情等の説明をした。仮にテーマを挙げているが、この4項目のテーマについて、部会としてはどのように進めていくかを検討していきたいと思う。対応はあくまでも案として書いてある。これ以外の案もあれば色々出してもらいたい。

意見等

【大角氏】

- ・課題抽出として課題として上がってきているので、何らかの形で取り組むべきだと思う。進捗が何年もかかるとか、すぐにできるのもあるので、一旦全部テーブルに上げていく必要があるかと思う。

【橋本氏】

- ・1番最初に作った冊子を持っているが、例えば拒食症当事者グループとか、依存症の当事者グループとかは増えているはず。休日に当事者のグループでの集まりやサロンをやっているところもあるので、横の繋がりを感じるようになるのでは。
- ・ワーキンググループの一覧を見ると、本当に困っているところもたくさんあり、優先順位と言うよりは、まず取り掛かってみて、進めていけそうな所から進めていくといいのかと思う。

【出店氏】

- ・3番目の親亡き後を感じてきている。5番目の災害時の対応については3月15日の研修で危機管理課から話があるということだが、毎年危機管理課からの話は確かあった。
毎年個別避難計画の重点地区を11か12選んでおり、今年は旭地区も入っているので、特に今年は危機管理課の話はいつもとは違うと思う。私的にはその5番の災害時の対応が気

意見等

になる。当事者向け手引きについては、当事者や家族は大変ありがたい。具体的に実際どこへ行って相談したらいいのか、はっきりとわからない。

【宮永氏】

- ・後見制度を導入したいが、どこに聞けばいいのかの問い合わせがあった。各項目別に各種サービス、障がい別とか、選別した状態で相談窓口、あるいは相談内容、事例とかがあるといい。
- ・知的障害者会の研修会の中で、災害についての研修を危機管理課に依頼したが、一般的な話をしてどうするのかと思った。障がい者向けの災害対応での特化したマニュアルがあるといいなと感じている。
- ・健康面の医療との連携については、例えば、〇〇の事例としてはこのような病院等がありますとか、見える化されているものがあると確かにいい。

【山越氏】

- ・バスの減便については私の身近な地域でも、頼りになるのが1本になった状況の中で、障がい者の移動が困難。運転できる方は駐車場のスペースが足りない。公的な機関に働きかけることができるといいのでは。私も障がい者を1人抱えて親子とも障がい者。私が亡くなった場合に、子どもがどうなるかということは当てはまる。

【長谷川氏】

- ・親の不安とか移動、災害時の対応はできる範囲の中でという部分になってくるのでは。例えば災害の対応では、障害者団体と特有の災害時への不安等を共有する場を設けてみるとか。そこに一緒に関わる人達と考えながら共有するとか、経験者話を聞くとか、できるところからやれるといいのでは。

【北山氏】

- ・余暇支援冊子をこの部会でずっと作り続けているので、自分の事業所にも置き換えながら考えたが、発信することに対して効果は得られているのか。数もだんだん減っているが、もっと発展し活性化を望むが、冊子がどれだけの方が見ていて、問い合わせとかの効果が見えないのでそこを知りたい。
- ・抽出結果を一言で表すのであれば、個人的には親亡き後という大きな壮大なテーマなのかなと思う。これに関しては、うちの事業所で取り組んでいて、オリジナルで雑誌を作り始めているので、共同した方が絶対より良いものになるが、どこまでのことができるか。親だけを1つのテーマに捉えたとすれば、地域生活支援拠点事業が親なき後を見据えた事業を展開していく事業だと思っていて、リンクすることを考えながら活動をした方がいい。今日欠席の竹澤さんのところも行っているが、居住支援法人、要配慮者に対しての住まいを一緒に考えていくことも大切。当たり前障がいがある人が地域で生活し続けるというところは外しきれないところなのかなとは思った。

【中村氏】

- ・この場として注力できるものが見つかるといいと思う。地域活動支援センターでも繋がった人はいないが余暇支援冊子を見ている人もいたので充実したものになればとは思う。
- ・移動については、取り組めるといい。親亡き後の不安についても課題の中でたくさん取り上げられているので冊子を作ったり、一緒に学ぶ機会とかを作れるといい。

【部会長】

- ・やはり1番多い意見が当事者向けの手引の作成等が多かったと思う。次は災害時の対応。

提案	それを優先順位にするつもりはないが、先ほど大角さんが言ったようにどれもテーブルに乗せるというのはある。これだけのことをしようと思うと、皆さんに負担はかかっていくことになる。少ない人数でやっていかないと絶対できないと思っている。関係者を巻き込んだワーキングチームを作る必要があるという感じがする。何かご意見あるか。
意見等	【黒田氏】 ・課題整理についてたくさん意見が出たが、何を優先的に取り組むか、他の機関と連携していくこと等、具体的に何のワーキングで掘り下げるか等をこの場では決める時間もないので、事務局で今日の部会で上がった意見等を取りまとめ、それをオープンにして優先度をどのように取り組んでいくといいのかを、来年度の最初の部会で皆さんで協議するということを提案したい。 ・課題抽出のワーキングでの意見なので、今日の部会で上がっている意見を取りまとめて、次年度の部会の前に課題抽出のワーキングがその前にワーキングするという形も提案できるがいかがか。 【大角氏】 ・来年度の1回目の部会では、報告ぐらいになると時間も短縮出来ると思うので、みんなで協力できると思う。 【部会長】 ・課題提出のメンバーで今年度中に集まって協議という事でいいか。 【黒田氏】 ・今皆さんから貴重な意見をもらったので見える化できるように取りまとめて、具体化するための協議の場を設けるということで大丈夫。 【部会長】 ・課題提出のメンバーに皆さんの意見を聞いたことも含めて、話し合う時間を設けて、来年度の1回目の部会にはワーキングチームを分けられるといいと思う。 ・冊子について北山さんから、自己満足となっていないかと厳しい意見だが、実際予算をつけてないので冊子にはしてない。ホームページにアップして、必要な人はプリントアウトしていく形になっている。
質問	【宮永氏】 ・事務局に聞きたい。いろんな当事者向けの冊子作成等の「見える化」となると…。福井市が考えていることは、他の市町村、県なんかも考えていると思うが、横の連携とか情報のやり取りとかは行われているのか。
回答	【城戸氏】 ・県の自立支援協議会の部会があり、そこで市町の担当者が出席しているので、そこで何を協議しているかとか、過去どういったことをしてきたとかは共有している。 特にこれで意見なしということで、終了。 ※次回は、4～5月に開催予定。